

# 慶応義塾大学 総合政策学部 傾向と対策

## 1. 過去の最低点

|     | 2020 年         | 2021 年         | 2022 年         | 2023 年         | 2024 年         | 2025 年         | 2026 年         |
|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 数学科 | 246/400(61.5%) | 254/400(63.5%) | 261/400(65.3%) | 258/400(64.5%) | 263/400(65.8%) | 263/400(65.8%) | 263/400(65.8%) |
| 数英型 | 246/400(61.5%) | 267/400(66.8%) | 275/400(68.8%) | 268/400(67.0%) | 280/400(70.0%) | 265/400(66.3%) | 265/400(66.3%) |
| 数情型 |                |                |                |                |                | 271/400(67.8%) | 271/400(67.8%) |

＊科目間で統計的処理により補正が行われているようです。

## 2. 配点

科目選択により配点が変わります。数学を選ぶ場合は以下の選択があります。

- ★数学（ⅠⅡAB） 200 点 小論文 200 点
- ★数学（ⅠⅡAB）と英語 200 点 小論文 100 点
- ★数学（ⅠⅡAB）と情報 200 点 小論文 100 点

## 3. 特筆すべき出題範囲について

- ★数学 A の出題範囲に「人間と数学の活動」が入っています。
- ★数学 B の出題範囲に「確率分布と統計的な推測」が入っています。
- ★数英型、数情型では数学 C が含まれていません。つまりベクトルの出題はあっても数学科受験者だけのようです。

## 4. 学習について

数学科であれば 120 分で、近年では 5 問です。数英型、数情型は 2 科目で 120 分です。数学の問題は基本的に前半の 3 問となります。2025 年から受験方法が変わりました。頻出分野は確率、空間図形、微積、数列です。微積に関しては、わりと典型的な問題が多いですが、高級な定番問題も出題されます。参考書の例題を見渡して知らない話題がないようにしておきましょう。確率は問題文が長いわりに、案外普通の問題であることが多いです。基本的な数え方をおさえて、あとは緻密に場合分けをする力が必要です。確率だけでなく数列や整数においても「実験して規則をつかむ」というスタイルの問題も散見されます。それにより漸化式を得て穴を埋めるというものです。こちらは過去問で時折現れます。問題文からそれを察して方針を定めましょう。

①『青チャート』（レベル 4 まで）『Focus Gold』（レベル 3 まで）『LEGEND』（レベル 3 まで）『数学Ⅰ・A 基礎問題精講』『数学Ⅱ・B+ベクトル基礎問題精講』『Super QuickⅠ+A』『Super QuickⅡ・B・C（ベクトル）』といった網羅系参考書をこなしましょう。例題が解けるようになることが目標です。数学が苦手である生徒さんに対しては『Super Quick』をおすすめします。

時間のない受験生は『Super Quick』→『文系の数学 重要事項完全習得編』と学習するとよいでしょう。

②『大学への数学スタンダード演習』『文系の数学 実践力向上編』『理系数学の良問プラチカ 数学ⅠⅡBC』といった問題集で演習を積むとよいでしょう。

③過去問演習をして時間内に得点を稼ぐ練習をしましょう。また独特な問いに太刀打ちする力を育みたいのです。以下の項目で A や B というところを完答できるように励んでください。過去問は何回もやり直してよいと思います。過去問は赤本で見ることができ、東進の過去問データベースでも見ることができます。

## 5. 過去の出題問題と難易度

過去に出題された分野と難易度を以下に示します。

A・・・完答必須です B・・・合格の明暗を分けそうです C・・・方針をとらえて部分点を得たいです D・・・難しいです。少しでも部分点がとれたら。 E・・・できなくても仕ないです

### 2020 年 目標 6 割

#### 数学Ⅰ 小問集合

- (1) 図形と方程式 AB 座標から中心角が速やかに分かったかどうかです。さらりと解きたいです。
- (2) 整数 AB 実験していけばよいでしょう。たとえば  $4^3 = 8^2$  みたいなやつだなと思ってこのようなものを書き出していきます。  $9^3 = 27^2$  だが  $c - a = 9$  だからもう少し上だな、結局左辺の底は平方数、右辺の底は立方数だから、  $16^3 = 64^2$ ,  $25^3 = 125^2$  と書き出せて埋まります。

## 数学Ⅱ 場合の数 C

(4)までは解きたいです。結局は 1, 2, 3 の順列や組み合わせをやっているだけと分かれば(4)まではいけます。(5)(6)は難しいでしょう。

## 数学Ⅲ 図形と計量、図形の性質 B

円同士が接していれば中心間の距離と半径を議論、接線があれば垂直に下ろすと基本通り線を引いていきます。今回は半径 1 の部分が多くあり、真ん中に  $45^\circ$  の角ができると気づけたかどうか肝心です。その後、余弦定理や三平方の定理でこなしていく流れです。近年これらの類の出題が見られなくなりました。

## 数学Ⅳ 数列 BC

総合政策っぽいオリジナリティのある問題です。まずは文章読解がどれだけスムーズにいったか。はじめは具体的な数で実験すればすぐ埋められます。それを利用すれば(1)は解けるでしょう。(2)もはじめは具体的においかければよいです。自分なりにイメージを書き直して分かりやすくシャッフルできたかが大切です。最後はちょっと面倒で埋められなくてもよいですが、本問は 1 ミス、2 ミス程度でおさめたいです。

## 数学Ⅴ 積分法 BC

与えられた関数のグラフがどういう状況になるかがつかめたかどうかです。図が把握できないと積分計算の工夫などが思いつかず厳しくなります。はじめの穴はしっかり埋めねばならないでしょう。最後まで厳しくても(66)まで、つまり 2 番目の積分の値まで埋められたら優秀でしょう。

## 数学Ⅵ 確率 BC

読解力が大切な問題ですが、分かりにくいでしょう。しかし、はじめの解答欄を見ると何となく式の立て方が分かる受験生は多そうです。はじめの問いは埋めたいです。後半は何を答えるのかが分かりにくく埋められた人少なそうです。

## 総評

簡単な問題は少なく完答できたという問題は少ないでしょう。Ⅲのような問題は落とすと大幅に失点するので、注意したいです。近年は見られませんが復活もありえます。他もある程度埋めて 6 割ほど確保したいところです。

## 2021 年 目標 7 割

### 数学Ⅰ 確率 B

間を開けて座るようにするという順列です。前半はコツコツ数えればよいでしょう。後半は、1 個は開けて円形に座るというものです。図形が絡む場合の数では「固定して数える」が定石です。二人の座る位置を固定してもう一人の座り方を数えるようにすれば難なく数えられます。完答したい問題です。

### 数学Ⅱ 図形と計量、三角関数 AB

こちらも文章は長いものの、図が丁寧に書いており、あまり深く読解しても解けそうと思えると良いでしょう。文字計算にさえ慣れていればやることは平易です。完答したい問題です。

### 数学Ⅲ 図形と計量 B

対策をしていれば平易でした。2 円が接しているような問題は中心間の距離を結んで長さを表現します。今回は角度  $45^\circ$  も見出しやすく、落とせない問題でしょう。近年ではこの類が見られませんが。

### 数学Ⅳ 図形と方程式 B

こちらは類題の経験があったかが大切です。一般に放物線と円が接する問題はいくつか解法の候補があります。僕が好きなのは放物線の接線の傾きを求め、次いで、円の中心と接点を結んだ線分の傾きを表現し直交させる作戦ですが、今回は図形の式が複雑ではないので、連立して  $y$  消去として判別式  $= 0$  でも良いでしょう。本問も落とさたくない問題です。

### 数学Ⅴ 数列 B

確率漸化式の類であり、まずは最後か最初に注目します。はじめに 1 体並べれば、残りは  $n-1$  体の並べ方、はじめに 2 体並べれば、残りは  $n-2$  体の並べ方だから、 $a_n = a_{n-1} + a_{n-2}$  つまりフィボナッチ数列だと求められます。この発想が湧かなかったとしても  $a_4$  を出せばフィボナッチ数列と気づくでしょう。穴埋めの利を活かして確実に速やかにはじめの穴は埋めたいです。後半は前半のように実験で埋めるのは少し難しいかもしれません。前半で漸化式の原理がとらえられていれば後半は簡単です。差がついたでしょう。

### 数学Ⅵ 確率分布と統計的な推測 CD

本年も文章読解を要する問題が登場しました。使うべき条件や数は多くないですが、できなかった人は多そうです。他でしっかり稼ぎにいくのが賢明でしょう。(1)だけでも埋められたらよいです。また、確率分布の問題が時折出題されていました。近年では見られませんが、文章読解の対策はしておいてもよいでしょう。

## 総評

本年はⅠ～Ⅴが平易でした。Ⅵはある程度で見切りをつけて、Ⅰ～Ⅴで点数を稼ぐのが賢明でしょう。

## 2022 年 目標 6 割 5 分

### 数学Ⅰ 数列 AB

実験をしていくと、1 が 1 個、2 が 2 個、3 が 3 個と分かります。これでそのあとの規則も予想ができてしまうので、不等式評価等を施さなくても埋められた人が多いと思われます。

### 数学Ⅱ 場合の数 C

条件が多いですが、例があるので、そこから数が上がったたり下がったりする数のことを言っているのだと把握できます。(2)ができるかどうかで明暗が分かれるでしょう。冒頭 2 行から同じ数を使ってはいけないということが分かるので、まずは異なる 3 つの数を選ぶとなれたかです。選んだあとで並べ方を考えればよいです。また 0 を含むときに注意を払うのもよくある話ではあります。とはいっても出来は悪そうです。(1)しかできなかったという

受験生が多かったでしょう。

### 数学Ⅲ 微分積分 AB

まさかの定番の問題が出てきました。ここは確実にとりたいです。

### 数学Ⅳ 図形の性質、図形と計量 C

読むのが嫌になる問題です。コスパが悪そうで一旦飛ばしたほうが賢明に思われます。はじめの穴では  $\angle BAG = \angle FAG$  であることを用いようとなれたかが焦点です。折ることにより合同な図形が現れます。はじめの穴は埋めたいところです。

### 数学Ⅴ ベクトル B

よくある外心の位置ベクトルの決定問題です。(2)である程度経験がないと内積が出せないかもしれません。ベクトルの正射影を考えればすぐに求まります。土臭く余弦定理で  $\cos$  を求めてもいいでしょう。本問は完答したいです。ただし近年ではベクトルは出題範囲に含まれておりません。

### 数学Ⅶ 確率分布と統計的な推測 C

本年も分かりづらい文章問題が出題されました。また本年も期待値の問題であり、ある程度過去問で練習していれば半分くらい埋められたかもしれません。近年ではこの類の出題は見られません。今後の復活もありえます。

### 総評

本年はⅡ、Ⅳにおいて読解力が必要で、やりにくかったでしょう。Ⅰ、Ⅲ、Ⅴをしっかりとってあとはちょいちょいというのが理想です。

## 2023 年 目標 6 割

### 数学Ⅰ 整数 B

(1)(2)までは大丈夫でしょう。ただし、数え漏れに注意したいです。(3)は探す他ないでしょう。素因数ができるだけ多いほうが良さそうだなという感覚があればたどりつけそうです。差が出そうな問題です。

### 数学Ⅱ 微分積分 AB

本年も定番の定積分が出題されました。やや計算量が多いので計算ミスに注意して完答しましょう。

### 数学Ⅲ 確率、確率分布 B

前半は有名な確率です。最後でも最初でも注目して 3 項間漸化式は立てられます。あるいは、 $n+1$  のマスを超えようとする確率を考えればすぐに 2 項間漸化式  $1 - p_{n+1} = \frac{1}{2}p_n$  が得られます。経験値が問われてほどよく差がつきそうです。最後は期待値の話で経験があれば方針は分かりますが、若干計算が面倒なので処理能力が問われました。期待値は過去にも出ているのでおさえておきましょう。

### 数学Ⅳ 整数 C

前半が実験の役割をしています。前半 2 問で軌道を描いてみたときに  $T(m, n)$  が  $m, n$  の最大公約数であることに気づけるかどうかです。問題のルールを読解するのもやや時間がかかりそうで、出来は悪いでしょう。

### 数学Ⅴ 空間ベクトル B

(2)で  $\overrightarrow{OD}$  を現すところで差がでそうです。ただし近年、ベクトルは出題範囲にありません。

### 数学Ⅶ 確率分布と統計的な推測 C

例年通りの出題でした。問題文は長いものの(123)までは埋めたいところです。最後までたどりつく人はあまりいなそうです。

### 総評

定番的な問題であるⅠ、Ⅱ、Ⅲはしっかりとりたいところです。後半がやはり難しいですがⅤではいつもほど空間認識能力が必要とされない問題でした。ここで得点が稼げたかが大切になりそうです。近年の問題とは傾向が違います。Ⅰ～Ⅳのような問題をしっかりと練習しておきたいです。

## 2024 年 目標 7 割

### 数学Ⅰ (1) 複素数と方程式 A (2) 整数の性質 A

(1)は解と係数の関係です。計算ミスだけ注意します。(2)は有名問題で、落とすことはできません。どちらも完答必須でしょう。

### 数学Ⅱ 微積分 AB

本年も絶対値付きの積分が出題されました。これも落とせません。

### 数学Ⅲ 確率 B

条件付き確率公式等にとって丁寧に求めていけばよいです。そこまで難しいことはありません。

### 数学Ⅳ 体積 C

(1)はスムーズに解きたいです。断面の場合分けは大丈夫でしょう。(2)では体積が断面積を積分して求められることを知っていたかどうかですが、対策していた受験生は少なそうです。数学Ⅲに取り組んでいた受験生に有利にはたきました。

### 数学Ⅴ 図形と方程式 BC

定番問題ですが、図の把握や計算量も多く最後までやりきるのは難しいかもしれません。最後の  $a$  による場合分けは大切です。復習はしておきたいです。

### 総評

本年は 5 題となり、しかも解きやすい問題が増えました。前半 3 問をしっかりととりきりたいです。あとは部分点をとって 7 割を目指しましょう。

## 2025 年 目標 7 割

### 数学Ⅰ (1) 場合の数 BC (2) 数列 A

(1)は参考書にあるような内容でした。(b)まではがんばりたいです。(e)はとなりあう面に赤を塗った場合、他の4色についての塗り方の重複まで冷静に考えるのは難しいでしょう。(2)は漸化式としては定番です。

### 数学Ⅱ 図形と方程式、積分法 B

円と放物線が接する話題です。まずは  $PA \perp PB$  からすぐに接点を求めたいです。円の中心と接点を結ぶ直線の傾きと、接線の傾きをかけて  $-1$  というのが定石です。面積も平易です。完答したい問題です。

### 数学Ⅲ 微分積分 B

微積分学の基本定理がテーマです。関数の設定、および微分をしてゴリゴリです。完答したい問題です。

### 数学Ⅳ 空間図形 BC

基本通り平面を取り出しながら求積していくというものです。例年よりも取り組みやすい空間図形の問題となりました。(3)まではがんばりたいです。最後まで解けた受験生は少ないと思います。

### 数学Ⅴ 確率 C

ルールを把握するのに時間がかかるでしょう。いかに整理できるか、です。(2)までできたらよいでしょう。ちなみにフランス式のじゃんけんはグーがものすごく弱く、パワーバランスがおかしいと思います。

### 総評

本年も5題でした。ベクトルの出題がなくなり、図形、微分積分、確率に重きがおかれています。前半4問で得点を稼ぎたいです。

## 2026 年 目標 7 割 5 分

### 数学Ⅰ (1) 対数、相加相乗、解と係数の関係 A (2) 微分積分 A

(1)は基本的な対数計算に相加相乗、解と係数の関係です。大丈夫でしょう。(2)も基本的な積分法の問題です。完答必須の2題です。

### 数学Ⅱ 数列、整数 B

まずは「連続して増加する正の奇数の和」を自分で文字を設定して表現できるか、が最も大切です。その後、偶奇によって、4の倍数と奇数が表せるということに気付けるか、です。最後も約数が一番多ければよいと思えば、そこまで難しい整数問題ではありません。おおむね埋めてほしいです。

### 数学Ⅲ 図形の性質 BC

(4)まではがんばりたいです。そこまではよくある問題です。最後はまず自分で四面体を組み立てて、方針を決めねばならず時間もかかりコスパが悪いでしょう。一旦とばすべき問題でしょう。

### 数学Ⅳ 確率 B

サイコロは5個と少し多いですが基本問題です。(3)では包除原理を用いるという定番がそなわっていたか問われます。(4)は場合分けが少し多いですが、分け方等は分かりやすいです。完答を目指したい問題です。

### 数学Ⅴ 数列、整数 C

(2)のように係数が大きいときの不定方程式の解き方をおさえていたかが一つポイントです。(3)はそのまま計算すると大変なので、いくつか実験をして規則を探ります。ここで脱落してしまった受験生は多そうです。

### 総評

本年は昨年よりもさらに解きやすくなりました。3問の完答を目指したいです。高得点の争いになったでしょう。